

「待っていてくださる」と休まず訪問

みやびやか旭・清雅ヘルパーステーション

管理者 石川 亜砂美さん



3月下旬頃から、マスクや手袋等予防具が手に入りにくくなりましたが、幸い事業所は感染予防用品の備蓄があったので、不足してケアに困ることはありませんでした。

こうした状況下で、ほぼ全員のヘルパーが仕事を続けてくれました。「私が訪問しないと生活が困る」「訪問を待っていてくださる方がいる」と。利用者は高齢の方であり、基礎疾患や重篤な疾患の方もいらっしゃるため、細心の注意を払いケアしています。現場では緊張の連続ですが、平常心でケアに努めてもらえたことは心強く、これからの希望だと感じています。

緊急事態宣言が出され、どうしたらケアを継続しつつヘルパーと利用者の安全を保っていけるか、清雅苑グループで「感染症対策会議」を毎週開催し作業チャートを作りスタッフを2グループに分け、もしもの時にも途切れずケアができるようにしています。

コロナ禍の中で得た経験は貴重であり、今後のケアに活かしていけると確信しています。(山口)